



平成29年度 第3号

高岡市立中田小学校

学校だより

あしっさ

平成29年7月20日発行  
発行責任者 森田英宏



## 「中田っ子読書のルーツ」 校長 森田 英宏

### 「最北の人・水基文庫」～古いスクラップブックに貼られたいくつかの新聞記事から～

昭和42年11月(今から50年前)、中田小学校に、北海道の水基正雪という名前の方から「わずかなお金ですがお納めください」と送金されてくるようになりました。本校の卒業生だと考えられましたが、感謝の気持ちを伝えようと出した手紙は、「該当者なし」として毎回返ってきたそうです。水基さんからの送金は、毎月、ずっと続きました。

昭和48年7月、それまでにいただいた寄付金で植物図鑑など35冊が購入され、「水基文庫」として図書室に備えられました。子供たちは、水基さんの善意に感激し、「(水基さんの)気持ちにこたえるために、夏休み中に全部読むぞ」と張り切っていたということです。

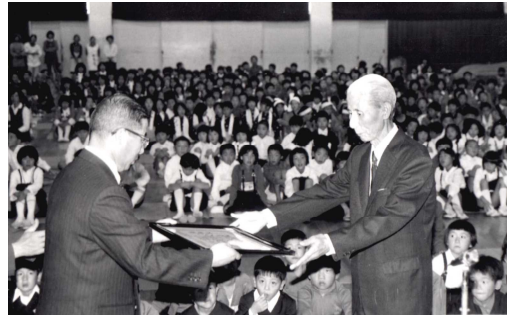
昭和54年、「水基文庫」は100冊を超えました。この年の9月、新聞記事がきっかけとなって、捜し続けていた水基さんが北海道で呉服店を経営しておられる山本義雄さんであることが判り、10月27日の学園祭(今の学習発表会)にお招きして感謝状が贈られました。

#### ＜以下は、昭和54年10月29日付、読売新聞記事の一部です。＞

……山本さんは、いつも、心の中で故郷や母校のことを思い描いていた。(昭和)38年11月、同小から一通の手紙が舞い込んだ。校舎を新築するため寄付の要請だった。ちょうどその頃、山本さんは連帯保証人となった会社が倒産したため店のノレンを下ろす寸前まで追い込まれ、寄付に応じられず、以来、これをずっと悔やんでいた。

(昭和)42年の4月になって、なんとか店を再建。その年の11月に現金千円を同小に送った。それ以降、毎月欠かさず送金を続けた。送出人の名前は“雪のように清く、正しい子供たちに育てほしい”と言う願いを込めて「水基正雪」という匿名にしたという。この間、学校が自分のことを捜していることはわからなかった。

(中略)送金の主がわかった同小は学校を挙げて大喜び。27日、山本さんを同校の学園祭に招いた。(中略)6年生が児童を代表して「先輩でこんな立派な人がいる。私たちもこの人に続いていきたい。」とお礼を述べると、父兄や児童たちから大きな拍手が起きた。……



＜体育館で感謝状を受け取る山本義雄さん＞

当時の図書室は、今のコンピュータ室の場所にありました。現在の図書室は、平成2年に校舎が増築されたときに造られました。

残念なことに、山本さんからいただいた何通ものお手紙は残ってはいないようです。寄付金で揃えられた書籍は、多くの子供に読まれる間にいつしか傷み、新しいものに更新されていきました。今では、図書室から水基文庫の名前もなくなっていますが、山本さんの母校を思う心や、当時の子供たちの読書への思いは、今も受け継がれているように感じます。

中田っ子たちが読書する姿の背景にある素敵な歴史に触れることができました。



今年も夏休みには、親子ふれあい読書に取り組んでもらいます。  
親子で本を開く時、水基正雪さんの名前を思い浮かべてくださることを願います。

